

阿寒湖の森林を守る取り組み

チュウルイ川周辺地域を市議会の林活議連で視察

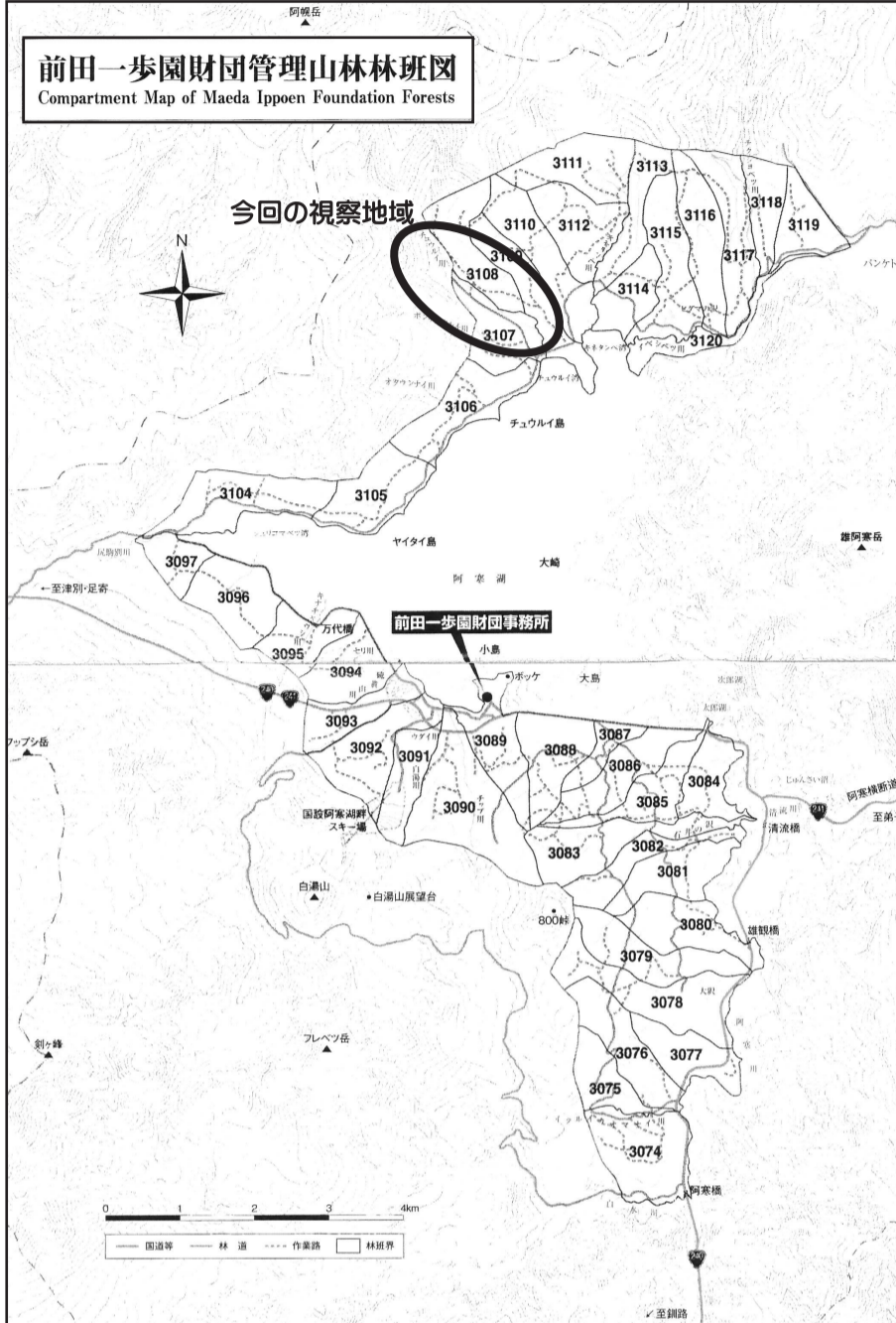
市議会の林活議連は、森林保全や林業振興を目的とした会です。その一環として、前田一步園が、「マリモ」群生地・チュウルイ湾に流れ込むチュウルイ川周辺の山林で行っている森林の再生事業を視察しました。

山林の再生

このあたりの森林は製紙工場への木材搬出のために、多



くの材木が切り出されたところです。その森をもともとの針葉樹7割、広葉樹3割の針



「前田一步園財団」のパンフレットより



広混合林に再生する取り組みです。といっても、一部に人の手で植林するところもありますが、多くは、丁寧な間伐で木の育ちをよくして、自然

の力で再生しようとするものです。皆伐をしない、鳥や動物の住みやすい森にする、マリモを守るため川筋の林は残し、川から離れるに従って伐採する木を増やすなど、ルールを決めて進めています。

国の補助は使えない

間伐には補助制度がありますが。しかし、川に近い当たりゆゆるやかな間伐を行う場合には、伐採量が全体の20%以上という補助対象を下回ってしまうという課題がありました。そこで、釧路市が独自に森林譲与税を財源に、10%まで補助する制度を創設、大変喜ばれています。

市が森林保護に積極的に取り組むことは大賛成です。しかし、財源が大衆課税にもつながらる森林譲与税であることには賛成できない点もあります。

エゾシカ食害防止

シカの被害防止も大切です。樹皮等が食べられないようにビートパルプ等を給仕場に置いたり、囲いわなを増やしていますが、なかなか決定打にはなっていないようです。



水質保護も

間伐のために、重機などが入り、肝心のチュウルイ湾の水質を悪化させては何にもなりません。

そこで前田一步園では、チュウルイ川に観測機器を設置して、継続的に水量、水温、水質（水に混じっている粒子の量）などの観測を続けています。



川に設置された観測機器